保護者の方へ

わが子の学びはどう変わる？

次の学習指導要領は、小学校で2030年度、中学校で2031年度、高校で2032年度の入学生から始まる見込みです。2026年10月の「審議まとめ」をもとに、お子さんの学年ごとに「いつ・何が変わり・家庭で何ができるか」を、まだ決まっていない点も含めてやさしくまとめました。



更新 2026年11月4日　チェックリスト 30項目　印刷 PDF

3行でいうと

1. 全面実施は小学校2030年度・中学校2031年度・高校2032年度入学生からの見込みで、2028年度ごろから一部を先に始める「先行実施」もあります（日程は今後変わる可能性があります）。
2. 学ぶ内容を大きく増やすのではなく大事なことに絞り込み、知識をつなげて自分の言葉で説明できる「深い学び」と、情報・AIを正しく使いこなす力を、小・中・高を通して育てる方向です。
3. 家庭では、学び方を自分で工夫する力、考えを話す・書く習慣、AIの答えをうのみにしない姿勢をそっと支えることが、審議まとめの方向性に沿った関わり方です。

わが子はいつから？学年をえらんでチェック

お子さんの2026年度（いま）の学年

小学1年

→ 2030年度（小5）から次期学習指導要領で学ぶ見込みです。

2026年度	**小1**	現行
2027年度	**小2**	現行
2028年度	**小3**	移行期間（情報の領域などの先行実施）
2029年度	**小4**	移行期間（情報の領域などの先行実施）
2030年度	**小5**	次期（全面実施）
2031年度	**小6**	次期（全面実施）
2032年度	**中1**	次期（全面実施）
2033年度	**中2**	次期（全面実施）
2034年度	**中3**	次期（全面実施）
2035年度	**高1**	次期（入学年度から年次進行）
2036年度	**高2**	次期（入学年度から年次進行）
2037年度	**高3**	次期（入学年度から年次進行）

※ 文部科学省「審議まとめ」（2026年10月5日）が示す見通し（小2030・中2031・高2032入学生から）で計算。答申・告示で変わる可能性があります。先行実施は新教科・領域（情報など）の部分的な実施です。

お子さんの学年だと、これからどうなる？

上の学年チェッカーでえらんだ学年の「道すじ」と「今年やっておくとよいこと」が出ます。

※ 年度は、審議まとめと文部科学省「改訂スケジュール（イメージ）」による見込みからの計算です。入試のあつかいは、まだ決まっていません。

いま小1のお子さん：これからの道すじ

小1・小2は今の学習指導要領、小3・小4（2028〜29年度）は一部を先に始める移行期間です。小5の2030年度から新しい学習指導要領になり、中学校・高校はすべて新しい学習指導要領で学ぶ見込みです。

P38 P51 P79 P86 P262 日程：スケジュール（イメージ）

入試はどうなりそう？（見込み）

高校入試は2034年度末（中3）、大学入試は2037年度（高3）の見込みで、中学・高校とも新しい学習指導要領で学んだあとです。入試の方法がどう変わるかは決まっていません。

今年やっておくとよいこと（原田英語からの提案）

- 学校の話を「何がおもしろかった？」と聞き、子どもの言葉で話してもらいましょう。
- 読み聞かせや図書館通いを続け、本を楽しむ習慣をつくってみましょう。
- おやつを分ける、時計を読むなど、生活の中で数にふれてみましょう。

いまの不安に、ひとつずつ答えます

気になる質問を押すと、答えが開きます。

Q　うちの子は移行期間の学年です。古い内容と新しい内容のあいだで、習わない単元が出たりしませんか？

A　新しい教科・領域は、小学校は2028年度、中学校は2029年度から段階的に先に始める「経過措置」をとる方向です。具体的な中身は今後、文部科学省が決めると

されています。前回の改訂でも、全面実施前の2年間に外国語活動を先に始めた例があります。 P79 P262

家庭では：学校だよりや説明会で、移行期間の進め方を確かめておきましょう。

Q 上の子と下の子で習う内容がちがうと、家で教えてあげられなくなりそうで不安です。

A 審議まとめは、学習指導要領を保護者も含めて誰でも見やすいデジタル版にすることや、国が子供・保護者向けにポイントを伝える動画をつくることを求めています。学年ごとに何を学ぶのかを、家庭でも確かめやすくする方向です。 P21 P88

家庭では：教え込むより、「今日は何を習ったの？」と子どもに説明してもらいましょう。

Q 算数が苦手です。新しくなったら、もっとついていけなくなりませんか？

A 審議まとめは、算数・数学は1つのつまずきが雪だるま式に増えやすいとして、小・中・高の学びを着実に積み重ねることを重視しています。割合・比・分数は内容や教える順序を見直し、進級後に前の学年の定着を確かめることも大切だとしています。 P164 P165 P166

家庭では：分からないところは、前の学年にもどって一緒に確かめて大丈夫です。

Q 親が英語を話せません。家で英語を手伝ってあげられるでしょうか？

A 審議まとめに、保護者が家で英語を教えることを前提にした記述はありません。家庭学習も含めて子どもが自分に合った学び方を使えるよう、国が参考になる動画や資料を出す方向です。よく使う語彙や文法を、いろいろな場面でくり返し使って身につける考え方も示されています。 P278 P281

家庭では：上手さより、習った英語を家で使ってみる場面を一緒に楽しみましょう。

Q 中学校の英文法がしぼられると聞きました。高校に

入ってから困りませんか？

A 中学校では、よく使う文法などを具体的に示して指導の対象をしぼり、難しさを適正にする方向です。ねらいは、理解して実際に使えるようにすることです。高校では入学の初めに学習状況をつかみ、中学校で習ったことをくり返し使いながら身につけることも示されています。 P278 P281 P283

家庭では：習った文法で、自分のことを短く話す・書く練習を応援しましょう。

Q 家にパソコンやネット環境が十分にありません。不利になりませんか？

A 次の学習指導要領は、学校の1人1台端末などの「デジタル学習基盤」を使うことを前提に考えられています。審議まとめは、家庭・地域の社会経済的な背景で使える学習環境に差があることへの留意も求め、家で学びにくい子のために校内に学習ブースをつくる例なども紹介しています。 P10 P25 P176

家庭では：端末の持ち帰りや家での使い方は、遠慮なく学校に相談しましょう。

Q 生成AIを早く使いこなせないと、置いていかれませんか？

A 学校では、発達の段階に応じたAIの適切な活用を示す方向です。一方で、AIで学習の過程を省くと学習効果が下がるおそれや、一見高度でも力がついていない「偽の熟達」への注意も示されています。国の生成AIのガイドラインは、2026年度中に改定される予定です。
P140 P262 P278 P330 資料P72

家庭では：急いで使わせるより、自分で考えて説明する力を家で育てましょう。

Q 字を書くのがとても苦手な子です。手書きを重視されると、つらくなりませんか？

A 小学校では手書きの書写を丁寧に指導する方向ですが、書くことに困難がある子には、デジタル学習基盤の活用や代わりの方法を積極的に用意し、一人一人の特性に合わせて指導することを明確にするとしています。評価でも、何を評価するのかを明確にするよう求めています。 P141

家庭では：困りごとは具体的な場面を添えて、早めに担任の先生に相談しましょう。

Q 道徳の評価が、高校入試の内申に響くことはありますか？

A 審議まとめは、道徳科の評価について、数値ではなく文章で書くこと、ほかの子と比べず成長を認め励ます個人内評価とすること、調査書（いわゆる内申書）に記載せず入学者選抜の合否判定に使わないこと、という整理をあらためて示しています。 P308

家庭では：道徳の時間に考えたことを、家で聞いてみるだけで十分です。

Q 共働きで、家で勉強を見てあげる時間があまりとれません。

A 審議まとめは、学校で学習の自己調整や学び方を指導したうえで、一律の宿題から抜け出し、家庭学習の内容を子ども自身が決められるよう段階的に指導する方向を示しています。算数・数学では、家庭での学習環境や保護者の理解に十分配慮する必要があるとも書かれています。 P10 P164

家庭では：短い時間でも「今日は何をやる？」と聞き、本人に決めてもらいましょう。

Q 好きなことばかりやっていて、苦手な教科を放っておいていいのか心配です。

A 審議まとめは「好き」を育み「得意」を伸ばし、それを原動力に学び全体への意欲を高めることを重視しています。同時に、好き・得意なことだけでなく苦手なことにも、学び方を自分で調整することが効果的だとし、全ての基盤になる基礎学力の意義にもふれています。 P9 P10

家庭では：好きなことでうまくいったやり方を、苦手な教科でも試してみましょう。

Q スマホや動画の時間が長くて心配です。学校では何か教えてくれますか？

A 審議まとめは、SNSや動画視聴の時間が長いほど学力調査の正答率が低い傾向を懸念として挙げ、子どものスマホ使用時間が大きく増えたデータも紹介しています。小学校の

新しい「情報の領域」では、長時間利用の影響を含む「適切な取扱い」も学ぶ方向です。 P5 P74 P324

家庭では：学校で学んだことをもとに、家の使い方を子どもと一緒に見直しましょう。

保護者は何をすればいい？（学年別チェックリスト）

「いま」「告示のあと」「移行期間」「全面実施のころ」に分けて、家庭でできることをまとめました。上の学年チェッカーで学年をえらぶと、お子さんの校種のタブに切りかわります。

小学生の保護者 | 中学生の保護者 | 高校生の保護者

- [ ] いま〜答申（2026年度） このページの学年チェッカーで、お子さんが新しい内容に出会う時期（先行実施・全面実施）を確かめ、家族で共有しておきましょう。 P38 P79 P262
  小学校の全面実施は2030年度、調整授業時数制度や総合の「情報の領域」は2028年度からの先行実施が示されています（日程は今後変わる可能性があります）。

- [ ] いま〜答申（2026年度） タブレット・動画・ゲームなど家での画面の時間について、学校での端末の使い方もふまえて、家族でルールを話し合っておきましょう。 P5 P26 P72
  審議まとめは、SNSや動画視聴の時間が長いほど学力調査の正答率が低い傾向や、情報技術への過度な依存を懸念として挙げる一方、「デジタルかリアルか」の二者択一ではないとしています。

- [ ] いま〜答申（2026年度） パソコンのローマ字入力は、家で急いで練習させなくても大丈夫です。学校で学ぶ順番を知ったうえで、楽しく触れる程度にしましょう。 P60 P140
  ローマ字の学習は今と同じ小学3年の国語で、ローマ字入力のタイピングは新しい「情報の領域」を中心に学ぶ方向です。

- [ ] いま〜答申（2026年度） 生活科や理科で育てたもの・調べたことを、家の生活の中でも話題にしてみましょう（料理に使う、近所で探してみる など）。 P209
  生活科では、保護者との連携により、学校での学びを家庭生活にも生かせるようにすることが重要とされています。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 学習面や生活面で配慮が必要だと感じたら、早めに担任の先生などに相談し、話し合いながら一緒に決めていきましょう。 P117

  本人・保護者からの申し出を受けて、建設的な対話で合意をつくり、過重な負担のない範囲で合理的配慮を行うことを総則に書く方向です。

- [ ] **告示〜移行期間** 国の保護者向けの説明動画や、ウェブ版の「デジタル学習指導要領」が公開されたら、お子さんの学年で何を学ぶのかを一度のぞいてみましょう。 P21 P88

  審議まとめは、子供・保護者向けにポイントを伝える動画の作成や、保護者を含め誰でもアクセスしやすいデジタル学習指導要領の整備を求めています。

- [ ] **告示〜移行期間** 学校だよりや学校のウェブサイトで、時間割（週のコマ数）や学校独自の時間の使い方の方針を確認しておきましょう。 P40

  調整授業時数制度を使う学校は、活用状況を学校のウェブサイトで公表し、学校運営協議会がある学校ではその活用方針も含めて承認を受ける運用が示されています。

- [ ] **移行期間** 週のコマ数や1コマの長さが見直されて下校時刻が変わることもあり得るので、習い事や放課後の予定を見直せるようにしておきましょう。 P39 P56 P57

  年間40週を標準として週28コマ以下などへの平準化を促し、1コマの長さも各学校が適切に決められることを分かりやすく示す方向です。

- [ ] **移行期間** 3年生以上は総合の時間に「情報の領域」の学習が始まる場合があります。何を学んだかを聞いて、家の端末ルールの見直しにも生かしましょう。 P79 P250 P262

  小学校は2028年度から段階的に新しい領域を先行実施する経過措置が示され、「情報の領域」では情報技術の安全な扱い方やしくみも学びます。

- [ ] **全面実施のころ** 通知表の所見（文章）を読み、書かれているよさや成長をお子さんと一緒に喜びましょう。「◯」が付いていないことを責める必要はありません。 P63 P64 P65

  教科ごとの「主体的に学習に取り組む態度」のABCをやめて総合所見欄での個人内評価にし、「思考・判断・表現」の評価の過程で主体的な姿が特に見られたときに、その評価に「◯」を付け加える方向です。具体的な「見取る姿」は小中学校向けに2028年度末までに周知する予定とされています。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 学年チェッカーで、お子さんが中学校の在学中に先行実施（調整授業時数制度や新教科「情報・技術科」など）に出会うかを確かめておきましょう。 P38 P79 P262

  調整授業時数制度は小・中とも2028年度から、中学校の新教科・領域は2029年度から段階的に先行実施する方向です（日程は今後変わる可能性があります）。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 定期テストの点数だけでなく、レポート・発表・作品づくりなど「考えを形にする課題」への取り組みも話題にし、工夫したところを認めましょう。 P63 P64

  思考・判断・表現の評価を、ペーパーテスト中心から、論述・レポート・口頭試問・プレゼンテーション・作品制作なども重視する形へ改善する方向です。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 課題に生成AIを使ってよいかは、まず先生の指示や学校のルールを確認する習慣をつけましょう。使ったときは、その内容を口で説明できるか家で試してみるのも一案です。 P26 P159

  AIに頼って自分で考えていない成果物は通用しないよう、口頭試問を取り入れるなどの評価の工夫が「喫緊の課題」とされています。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 数学・理科や理系の進路について、「女の子だから」「男の子だから」と決めつけない声かけを心がけましょう。 P178 P192

  理工系進学の男女差の解消に向けて、児童生徒・保護者・教師の無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）をなくす普及啓発が挙げられています。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 校則や学校行事について子どもが意見を出す機会があれば、家でも考えを聞き、応援しましょう。 P10 P11 P355

  生徒会が校則など学校のルールづくりに関わる仕組みや、学校行事の企画・運営を子供が担うことを明示する方向です。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 数学は、習ったところを家で短く振り返る時間をつくってみましょう。親が教え込むより、本人の言葉で説明してもらう形がおすすめです。 P164

  家庭で見通しを立てて予習し、学習内容を振り返って復習する機会づくりが、算数・数学の授業で十分なされていないケースがあると指摘されています（家庭の学習環境や保護者の理解への配慮も必要とされています）。

- [ ] **移行期間** 不登校で校内・校外の教育支援センターで学んでいる場合は、2028年度から使えるようにする方向の「特別の教育課程」について、学校や教育委員会に相談してみましょう。 P369 P370 P371 P384

  対象かどうかの判断では本人・保護者の意向確認を経ること、授業時数も本人・保護者の意向をふまえて設定することが示されています。対象は当面、義務教育段階です。

- [ ] **移行期間** 高校受験については、都道府県教育委員会などが出す出題方針や選抜方法のお知らせを確認しましょう。 P86

  知識を単純に問う出題を見直し、出題方針の公表などを進める方向が示されていますが、入試の方法は実施者が決めるもので、いつから変わるかは示されていません。

- [ ] **移行期間** 障害などで配慮が必要な場合は、高校進学に向けて、配慮の内容が「個別の教育支援計画」に書かれ、進学先へ引き継がれるかを確認しましょう。 P86 P117

  合理的配慮の内容を個別の教育支援計画に確実に記載し、学校間で確実に引き継ぐことの重要性を示す方向で、高校入試での受検上の配慮についても考え方や例を示すとされています。

- [ ] **全面実施のころ** 学期ごとの通知表に評定（5段階など）が載らない学校もあり得ます。学年末にまとめる評価の考え方を、説明会やお便りで確認しましょう。 P62 P70

  評定へのまとめ（総括）は学年末だけに行ってもよいことを明確にし、学期中は学習の改善に生かす評価を中心にする方向です。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 学年チェッカーで、お子さんが高校で新しい学習指導要領の対象になるか確認しましょう（2032年度入学生から＝2026年度に小学4年生以下のお子さんが対象の見込み）。 P51

  高校の学習指導要領は2027年度末に改訂（告示）する予定とされ、スケジュール（イメージ）では2032年度入学生から学年ごとに実施する見込みです。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** いまの高校生は現行の学習指導要領で学びます。大学入試の制度については、うわさではなく大学や公的機関の正式な発表で確かめましょう。 P44 P52 P179

  審議まとめは大学入試の制度をどう変えるかは扱っておらず、高校での数学の学びの成果が適切に評価されるよう高校・大学の関係者と対話を進める必要がある、などと述べるにとどまります。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 探究やレポートでは、メモ・下書き・参考にした資料など「考えた過程」を残しておく習慣を応援しましょう。 P26 P64

  AIに頼って自分で考えていない成果物が通用しないよう、口頭試問を取り入れるなどの評価の工夫が示され、論述・レポートなど学びの調整が求められる課題も重視する方向です。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 「やりたいことが決まらない」ことを責めず、いろいろな体験や本、人との出会いを一緒に楽しみましょう。 P323

  興味・関心と出会う体験がないまま「何がやりたいのか」を過度に問われ続けると息苦しさにつながりかねない、との指摘が紹介され、知らなかったテーマと向き合う経験も大切だとされています。

- [ ] **いま〜答申（2026年度）** 高校選びの説明会では、探究の時間をどう進めているか（学級共通のテーマ探究と、一人一人のマイ探究の組み合わせ方など）も聞いてみましょう。 P11 P77 P323
  総合的な探究の時間で「テーマ探究」と「マイ探究」をバランスよく組み合わせ、研究系・行動系に加えて創作系の探究も示す方向です。

- [ ] **告示〜移行期間** 2027年度末の告示後は、志望校の候補が新しい課程でどんな科目・単位を組むのか、各校の公表や説明を確認しましょう。 P44 P51
  必履修科目の組み替えなどをする学校は、変更の趣旨・内容を公表し、生徒・保護者に説明することが要件の一つとされています。

- [ ] **告示〜移行期間** 2028年度から「高校版サキドリ研究校」が指定される方向です。地域の高校が指定されたら、どんな取り組みをするのか説明に目を通しておきましょう。 P51 P57
  全面実施の前に高校が新しい仕組みの教育課程を試せるよう、2028年度から高校版サキドリ研究校を指定して事例づくりを進めるとされています。

- [ ] **移行期間** 在籍する高校で単位のしくみの柔軟化（半期で終わる科目、週のコマ数の見直しなど）が先に始まったら、時間割と単位の取り方を本人と一緒に確認しましょう。 P42 P51 P57
  単位制の柔軟化は2029年度か2030年度に先行実施し（年度は今後決定）、週30コマの標準は示さないこととする方向です。

- [ ] **全面実施のころ** 成績や履修の表が「新単位」（1単位＝17コマ、卒業に148新単位）で表示されるようになります。数字の読み方を確認しておきましょう（学ぶ量が倍になるわけではありません）。 P42 P46
  1単位を35コマで数える今のしくみを17コマで数える形に改め、卒業に必要な単位を74単位から148新単位にする方向です。

- [ ] **全面実施のころ** どの科目を何年生で取るかの履修計画を、本人と一緒に見てみましょう。英語や数学は科目の名前や組み立てが変わる見込みです。 P80 P82 P167
  英語は「英語コミュニケーション（総合）」「英語コミュニケーション（発信）」（いずれも仮称）に、数学A・B・Cは一つの新しい選択科目（「数理活用」などの案）にまとめる方向です。

チェックはこの端末のブラウザだけに保存されます。ここに書いた「すること」は、審議まとめの方向性をもとにした原田英語.comからの提案です。

何が変わる？家庭で何を勉強させればいい？

小学生 | 中学生 | 高校生

いつから？

小学校は2030年度（令和12年度）から全学年で新しい学習指導要領になり、新しい教科書も2030年度から使われる見込みです。その前の2028年度から、総合の「情報の領域」や、授業時数を学校が調整できる制度などを先に始められるようにする方向です。2026年度に小1・小2のお子さんは小学校の途中から、小3・小4のお子さんは中学校の途中から新しい学習指導要領で学ぶ計算です（日程は今後変わる可能性があります）。

小学生が学ぶこと、ここが変わる

総合の時間に「情報の領域」ができる

小学校の「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」という名前に変わり、新しく「情報の領域」が加わる方向です。3〜6年生で、タブレットなど情報技術の使い方、安全な扱い方、しくみを順を追って学びます。時間は3・4年で各学年最大30コマ程度、5・6年で最大35コマ程度と見込まれています（1コマ＝授業1回分。正式な時数はこれから決まります）。 P74 P78 P79 P323

英語は「音声で慣れてから読む・書く」を大切に

3・4年の「外国語活動」、5・6年の「外国語科」という今の形は続きます。音声で十分に慣れ親しむ段階から、読む・書くへとなめらかにつなぐよう段階的に示し、日本語と英語の語順の違いに気づかせて中学校の文法につなげます。習った表現を何度も繰り返し使うことの大切さも示されています。 P276 P277 P281

算数は割合・比・分数のつまずき対策

割合・比・分数は、理解が十分でない子が多いとして、内容や教える順序を見直す方向です。前に習ったことがどれくらい身についているかを確かめることの大切さも指摘されています。算数・数学全体で、筋道を立てて説明する学びを重視します。 P165 P171

国語は手書きの書写を引き続き重視

タブレットでの文字入力が増えても、文字を正しく書く力はすべての学びの土台だとして、小学校では手書きの書写を丁寧に指導します。話す・聞く、書く、読むの学習は、話や文章が社会で果たす役割（「話や文章の機能」〔仮称〕）でつなげて学ぶ形に整理されます。 P131 P141

生活科・理科は体験と日常のつながりを重視

1・2年の生活科は、体を使った体験と多様な表現（話す・描くなど）を行き来する学びを目標の中心にする方向です。理科は内容を物理・化学・生物・地学の4分野で整理し、分野をまたぐ身近な課題を考える「理科と日常生活」（仮称）が新しく設けられます。 P184 P187 P203

体育は1〜4年で「運動遊び」と「動き」を軸に

1〜4年の体育は「遊び」の要素を取り入れた学習として整理し、具体的な運動の名前ではなく、身につけたい「動き」を軸に示す方向です。やらされる運動ではなく、楽しみながら多様な動きを経験することがねらいです。 P270 P272

評価は「学びに向かう力」の扱いが変わる

教科ごとに「主体的に学習に取り組む態度」をA・B・Cで評価するやり方をやめ、学校生活全体を通して一人一人のよさや成長を文章で見る評価（個人内評価）にする方向です。考える・判断する・表現する過程で、自分から動き出す姿などが続けて見られたときは、その観点に「◯」を付け加えます。小中学校向けの具体的な見方（「見取る姿」）は2028年度末までに示される予定です。

P63 P64 P65 P67

1年間の授業時間の合計は今と同じ、時間割にゆとり

1年間の標準の授業時間の合計は今のまま維持し、情報の時間は3年生以上の教科から少しずつ（3〜4%程度）減らして生み出す考え方です。年間40週を標準として時間割をならし、週28コマ以下にしやすくする方向で、学校が教科の時間を調整できる「調整授業時数制度」も設けられます。

P31 P37 P56 P79

家庭でできること・何を勉強させればいい？

「今日わかったこと」を自分の言葉で話してもらう

授業で何を学んだかを、お子さんの言葉で家族に説明してもらう時間をつくってみましょう。うまく説明できなくても大丈夫です。「どうしてそう思ったの？」と聞き役になるだけで、考えを整理するきっかけになります。

根拠：審議まとめは、書く・話すといった「外化」（頭の中の考えを外に出すこと）で自分なりの意味理解をつくることを重視しています（P28）。

家庭学習は「何を・どれだけ」を一緒に決めて振り返る

宿題や家庭学習の内容を、少しずつお子さん自身が選べるようにしていく方向が示されています。家庭でも、やることを一緒に決め、終わったら「どこが難しかった？次はどうする？」と短く振り返ると、自分で学び方を工夫する練習になります。

根拠：一律の宿題から脱却し、学習の自己調整や学習方略の指導を経て家庭学習の内容を子供が自律的に決められるよう段階的に指導するとしています（P10、P27〜28）。

外遊びや自然・生き物とふれあう体験を大切に

体を動かして遊ぶこと、草花や生き物にふれること、身近な場所に出かけることなど、五感を使う体験は学校の学びの土台になります。特別なことをする必要はなく、日常の中で無理のない範囲で楽しんでください。

根拠：「デジタルの力も使ってリアルな学びを支える」というバランスを示し、生活科では身体性を伴う体験を重視しています（P8、P203）。

調べたことは「どこに書いてあった？本当かな？」と一緒に確かめる

タブレットやインターネットで調べたときは、どこからの情報か、ほかの情報と比べてどうかを一緒に見てみましょう。検索結果の要約をそのまま写すのではなく、自分の言葉でまとめ直す習慣が身につくと安心です。

根拠：検索結果のAI要約を単純にコピーする実態への指導や、情報の信頼性を確かめる技能の向上が課題とされ、情報の領域では安全な扱い方も学びます（P26、P74）。

英語は「聞いて楽しむ」ことから

小学校の英語は、音声で十分に慣れ親しんでから読む・書くへ進む考え方です。家庭でも、つづりを正しく書けるかより、英語の歌や簡単なあいさつを聞いたり口にしたりして楽しむことを大切にしてみてください。

根拠：外国語活動（音声での慣れ親しみ）から外国語科（読む・書くを含む）へ円滑につなぐ指導を示しています（P281）。

お子さんの「好き」を話題にする

お子さんが夢中になっていることや知りたいことを、家族で話題にしてみましょう。「好き」から生まれた問いは、総合の探究など学校の学びにもつながります。

根拠：「好き」（興味・関心）を育み「得意」を伸ばすことを改訂の柱の一つとしています（P9〜10）。

いつから？

中学校は2031年度（令和13年度）から全学年で新しい学習指導要領になり、新しい教科書も2031年度から使われる見込みです。2028〜2030年度は先行実施の期間で、授業時数の調整制度は2028年度から、新教科「情報・技術科」は2029年度から段階的に始められるようにする方向です。いま（2026年度）の中学生は全面実施の前に卒業しますが、在学中に先行実施の一部に出会う可能性があります（日程は今後変わる可能性があります）。

中学生が学ぶこと、ここが変わる

新しい教科「情報・技術科」ができる

今の「技術・家庭科」の技術分野が、新しい教科「情報・技術科」になる方向です。情報技術と、情報を土台にしたものづくり（生産技術）の2つの領域で学びます。必要な時間は1・2年で各学年最大70コマ程度、3年で最大35コマ程度と見込まれています（今の技術分野の内容を含む数字で、正式な時数はこれから決まります）。

P74 P78 P79 P241 P242

「家庭科」が独立した教科に

技術・家庭科から家庭分野が分かれ、独立した「家庭科」になる方向です。小・中・高を通して領域が「家族・家庭と生涯発達」「食生活」など5つ（いずれも仮称）に整理され、お金の管理と消費者としての権利などをまとめて学ぶ領域が設けられます。

P74 P223 P227

英語は文法と単語の難しさを適正に

中学校の文法事項は、よく使うものなどを具体的に示して指導の対象をしぼり、難しさを適正にする方向です。国が「基盤語彙リスト」を作って教科書の単語の難しさや選び方をならします。「社会的な話題」は、生徒が自分と結びつけて考えられる「身近な社会的な話題」に改められます。授業を生徒の理解に応じた英語で行う方針は続きます。

P276 P277 P283 P284

数学・理科に「ガイダンス」が新設

数学では、数学の全体像や社会・仕事とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス」が新しく設けられ、証明など筋道を立てて考える学習を重視します。理科では「科学とは何か」や研究倫理を学ぶ「科学ガイダンス」が新設されます。 P165 P167 P187

社会は分野をまたぐ単元と情報の真偽を確かめる力

地理・歴史・公民をつなぐ「分野横断」の単元が設けられ、地域調査などはそこでまとめて扱う方向です。ネットやAIの情報が正しいかを確かめる「情報の妥当性の確認」の技能や、模擬選挙などの主権者教育も重視されます。教科書の用語は精選する方針です。 P151 P153 P155 P159

総合は「総合的な探究の時間」に、生徒会は学校づくりに意見を

中学校の総合も「総合的な探究の時間」という名前になり、学級共通の「テーマ探究」と一人一人の「マイ探究」を組み合わせて進めます。特別活動では、生徒会が校則など学校運営について意見を出す活動を大切にする方向です。

P77 P323 P343 P350 P355

評価：「◯」の付記と学年末の評定

教科ごとの「主体的に学習に取り組む態度」のA・B・C評価はやめ、学校生活全体を通じた文章の評価にする方向です。考える・判断する・表現する過程で主体的な姿が続けて見られた場合は、その観点に「◯」が付き、評定に影響することはあり得ますが、自動的に評定が上がるものではないとされています。評定のまとめを学年末だけにしてもよいことも明確にする方向です。

P63 P64 P66 P67 P70

道徳は1つの教材を複数の時間でじっくり

道徳の目標や評価の骨組みは今のままで、「考え、議論する道徳」をすべての学校で実際に行う段階と位置づけられました。1つの教材を翌週などにまたがって2コマ以上で扱う方法や、先生が交代で学級を回る授業も示されています。 P305 P309 P315

家庭でできること・何を勉強させればいい？

テスト勉強の「やり方」を一緒に振り返る

点数だけでなく、「どんな方法で勉強した？それは効いた？」を話題にしてみましょう。計画を立て、やってみて、やり方を見直す経験の積み重ねが、自分で学び続ける力になります。

根拠：学習の自己調整や学習方略（効果的な学び方）の指導を重視し、英語では家庭学習を含めて学習方略を活用できるよう国が動画や資料を提供するとしています（P27〜28、P281）。

身近な社会の話題について家族で意見を交わす

ニュースや学校のきまり、地域のできごとなど身近な話題について、お子さんの意見を聞いてみましょう。親の考えと違っても、理由を聞き合うことを大切にすると、自分の意見をつくり対話する練習になります。

根拠：「当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる」ことを改訂の両輪の一つとし、校則を含む学校生活の課題を議論する活動などを例示しています（P10、P87）。

AIを使ったら「自分の言葉で説明できるか」を確かめる

生成AIや翻訳ツールを使った場合は、その答えをそのまま出すのではなく、合っているか確かめ、自分の言葉で説明できるかを一緒に確認してみましょう。家庭での使い方は、学校のルールやサービスの年齢制限・利用規約に合わせて話し合い、個人情報を入力しないことも確認しておくと安心です。

根拠：AIの出力をそのまま使う「学習過程の省略」を避けるため外化を重視し、英語では家庭学習の課題をAI翻訳で済ませられるような出し方をしないよう留意するとしています（P28、P282）。

ネットの情報は「誰が・何のために」発信したかを考える

SNSや動画で見た情報について、発信者や根拠、ほかの情報との違いを話題にしてみましょう。家族で一緒に確かめる経験が、偽情報にまどわされない力につながります。

根拠：SNS等の偽・誤情報やフィルターバブルによる分断を課題とし、社会科では情報の妥当性を確認する技能を位置づけています（P72、P159）。

家の仕事やお金の使い方を一緒に考える

食事づくりや買い物、おこづかいの使い方など、毎日の生活の中にも家庭科の学びがあります。お子さんに任せられることを少しずつ増やし、工夫したことを聞いてみましょう。

根拠：家庭科は独立した教科として、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育て、金銭管理と消費者の権利をまとめて扱う方向です（P74、P224、P227）。

いつから？

高校の新しい学習指導要領は2027年度末に告示され、2032年度（令和14年度）の入学生から学年ごとに始まり、2034年度に全学年がそろう見込みです（教科書も2032年度から学年ごと）。単位のしくみの柔軟化は2029年度か2030年度に先行実施する方向です。いま（2026年度）の高校生は対象外で、2026年度に小学4年生以下のお子さんが新しい高校教育の最初の学年になる計算です（日程は今後変わる可能性があります）。

高校生が学ぶこと、ここが変わる

単位の数え方が細かくなる（1単位＝17コマ）

1単位を35コマで数える今のしくみを、50分×17コマの「新単位」に改める方向です。卒業に必要な単位は74単位から148新単位になりますが、数え方が細かくなるためで、学ぶ量が倍になるわけではありません。週30コマという標準も示さないことにし、学校が時間割を柔軟に組めるようにします。

P42 P46 P50 P51

学校ごとに教育課程の特色が出やすくなる

必ず学ぶ科目（必履修科目）も含めて、学校の判断で科目を組み替えたり、一定の範囲で単位数を減らしたりできるようにする方向です。科目を組み替える場合は、その趣旨や内容を公表し、生徒・保護者に説明することが要件の一つとされています。

P42 P44 P47

英語は科目名が変わり、B2相当以上なら免除の道も

「英語コミュニケーション」は「英語コミュニケーション（総合）」、「論理・表現」は「英語コミュニケーション（発信）」に変わる方向です（いずれも仮称）。学ぶ量は今と同じです。CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のB2レベル相当以上を証する外部試験に合格し、振り替え先で英語の力を発展的に伸ばせるなどの要件をすべて満たす場合に、学校が実施できれば「英語コミュニケーション（総合）Ⅰ」を免除し、上位の英語科目や外国語に関する学校設定科目などに振り替えられるようにする方向です。

P48 P49 P80 P281 P284

数学Ⅰに「社会を読み解く数学」、数学A・B・Cは1科目に

必履修の数学Ⅰに、実社会の場面をもとに学ぶ「社会を読み解く数学」と「数学ガイダンス」が加わり、最大8新単位程度になる方向です。数学A・B・Cは1つの新しい選択科目（「数理活用」〔仮称〕などの案）にまとめられます。

P80 P81 P82 P167 P172

情報はAI・データサイエンスを強化

情報Ⅰ・情報Ⅱの構成は維持し、文系・理系を問わず全員が数理・データサイエンス・AIの基礎的な力を身につける方向で内容を充実させます。AIやデータサイエンスに関する内容を新しく加え、実社会の課題を解決する学習も重視します。

P74 P242 P252 P255

国語・理科も科目の組み立てを見直し

国語は必履修の「現代の国語Ⅰ」「言語文化Ⅰ」（仮称）の枠組みを保ちつつ、選択科目を標準2科目と発展4科目に組み替える方向です。理科は「科学と人間生活」（8新単位）1科目で必履修を満たせる道が加わり、各基礎科目に「科学ガイダンス」が入ります。

P80 P82 P137 P187 P188

探究は「マイ探究」を自分で進められる姿へ

総合的な探究の時間は名前も時間数の考え方も続きますが、学級共通の「テーマ探究」と、自分の在り方生き方に関わる「マイ探究」を組み合わせ、生徒が自分で探究を進められる姿を目指します。研究系・行動系に加えて、創作系の探究も明示されます。

P76 P77 P323 P343

家庭でできること・何を勉強させればいい？

高校選びでは各校の「教育課程の特色」も見る

新しい制度では、学校ごとに科目の組み立てが今より多様になる見込みです。これから進学先を考えるときは、学校説明会や学校のウェブサイトで、どんな科目をどのように学ぶのかを一緒に確かめてみましょう。

根拠：科目の組替えにあたっては、変更の趣旨・内容を公表して生徒・保護者に説明することを要件としています（P44）。

「好き」や関心を探究のテーマとして応援する

お子さんが関心をもっていることを、将来や社会とつなげて話してみましょう。答えを急がず、問いを一緒に面白がることが、マイ探究の後押しになります。

根拠：一人一人を起点とする「マイ探究」を重視し、「好き」を育み「得意」を伸ばす方向を示しています（P10〜11、P323）。

レポートやAIの使い方は「自分で考えた跡」を大事に

AIを使うこと自体を一律に否定するのではなく、出てきた答えの正しさを確かめ、自分の考えとして説明できるかを大切にするよう声をかけましょう。自分で考えずにAIに頼った成果物は通用しない評価の工夫も検討されています。

根拠：AIの出力をうのみにしないことや、口頭試問の要素を取り入れるなど評価の工夫を示し、AI時代こそ意味理解を伴う「確かな知識」が大切だとしています（P9、P26、P28）。

文系・理系を問わず、数学やデータの学びを続けることを応援する

進路の方向にかかわらず、データやAIを読み解く力はこれからの社会で役立ちます。「文系だから数学はもういい」と決めつけず、身近なデータやグラフを話題にしてみましょう。

根拠：私大文系志望者などが数学の学習をあきらめてしまう現状を課題とし、文理を問わず全員に数理・データサイエンス・AIの力を育てる方向です（P74、P165）。

外部試験は「目的」を話し合ってから

英語・数学の免除制度は、学校が実施できる場合の選択肢で、対象となる試験や級もまだ決まっていません。外部試験を受けるときは、力を確かめたいのか、何を学びたいのかなど、目的を本人と話し合っておくとよいでしょう。

根拠：履修免除は学校として実施できる場合の選択肢で必ず免除するものではなく、試験の種類等は解説等で定めるとされ、大学入試対策のための早修への濫用は不適切としています（P48〜49、P176）。

選挙や地域の課題について話題にする

18歳で選挙権をもつ高校生にとって、社会の課題は自分ごとです。選挙や地域のできごとについて、お子さんの考えを聞き、家族の考えも伝えてみましょう。

根拠：「民主的で持続可能な社会の創り手」の育成を目指し、主権者教育の充実を示しています（P10、P158〜159）。

教科ごと：家で何を勉強させればいい？

英語

国語

AI翻訳がある時代でも、自分のことや考え、住んでいる地域のことを英語で伝え合う力を重視。よく使う語彙・文法をしぼり、くり返し使って身につける方向です。

P278 P281 P282 P283

小学生

- 英語の歌や絵本の音声を聞いて、まねして口ずさんでみましょう。
- 習ったあいさつや表現を、家の中で合言葉のように使ってみましょう。
- 日本語と英語で言葉の並ぶ順番がちがうことに気づいたら、一緒に面白がってみましょう。

中学生

- 習った文法を使って、自分のことを3文で話す・書く練習をしてみましょう。
- 住んでいる地域のおすすめを、英語で紹介する文を考えてみましょう。
- 翻訳ツールを使うなら、先に自分で書いてから比べてみましょう（学校のルールも確認を）。

高校生

- 社会の話題について、自分の意見と理由を英語で短くまとめてみましょう。

自分の考えを言葉にして筋道立てて伝える力、情報の信頼性を見極める力、語彙と読書の習慣を重視。小学校では手書きの書写も引き続き大切にします。

P10 P130 P136 P140 P141

小学生

- 読み聞かせや図書館通いで、本を楽しむきっかけをつくりましょう。
- 手紙やカードなど、手で文字を書く機会を大切にしましょう。
- 「楽しい」以外の言い方を一緒に探すなど、言葉遊びで語彙を増やしてみましょう。

中学生

- ニュースの話題について、考えと理由を筋道立てて話してもらいましょう。
- 似た言葉のちがいを辞書で調べるなど、言葉の感覚を磨く会話をしてみましょう。
- 読んだ本を家族にすすめるつもりで、ひとこと紹介してもらいましょう。

高校生

- 論説や社説を読み、筆者の主張と根拠を一緒に整理してみましょう。

- 単語の覚え方など、どの学び方が効いたかを本人が振り返る時間をつくりましょう。
- 生成AIで作った例文は、そのまま覚えず、辞書や教科書で確かめてから使いましょう。

- 同じできごとを複数の報道で読み比べ、伝え方のちがいを話してみましょう。
- 生成AIの文章をそのまま使わず、まず自分で考えて書く習慣を大切にしましょう。使ったときは内容を確かめ、学校のルールにしたがってAIを使ったことや出典を書きましょう。

算数・数学

公式の丸暗記ではなく、意味が分かって使える力を重視。つまずきが積み重ならないよう基礎を確実にし、日常や社会とのつながりを実感できる学びを目指します。

P163 P164 P165 P166 P167

小学生

- 買い物の割引やおやつの分け方など、生活の中で割合や分数にふれてみましょう。
- 答えが合ったら「どうやって考えたの？」と聞き、説明してもらいましょう。
- つまずいた単元は、前の学年にもどって確かめても大丈夫です。

中学生

理科

身近な自然や日常の現象を、科学的に確かめて考える力を重視。小学校に「理科と日常生活」、中・高に「科学ガイダンス」を設けることが提案されています。

P183 P184 P185 P187 P192

小学生

- 身近な「なぜ？」を見つけたら、予想してから確かめる遊びをしてみましょう。
- 料理や天気、植物の育ち方など、日常の中の理科を話題にしてみましょう。
- 図鑑や、無料で参加できる自然観察会・科学のイベントも探してみましょう。

中学生

- 間違えた問題は、どこで
  つまずいたかを本人に説明して
  もらいましょう。
- スポーツの記録や気温など、
  身近なデータをグラフにして
  話してみましょう。
- 証明や説明の問題は、家族に
  「なぜ？」を説明する練習に
  してみましょう。

高校生

- ニュースの確率や統計の数字を、
  どう読めばよいか一緒に
  考えてみましょう。
- 生成AIで解いた答えは、自分で
  検算して正しいか確かめる習慣を
  つけましょう。
- 数学がどんな仕事や学問で
  使われているか、一緒に
  調べてみましょう。

- 実験の結果について「予想と
  ちがったのはなぜ？」と話して
  もらいましょう。
- SNSで見た健康や科学の話は、
  根拠があるか一緒に
  確かめましょう。
- 科学の仕事や研究者の話にふれ、
  理科と社会のつながりを
  感じてみましょう。

高校生

- 科学のニュースについて、
  データや根拠をもとに考えを
  話し合ってみましょう。
- 大学や研究機関の公開講座など、
  研究にふれる機会を
  のぞいてみましょう。
- データをごまかさないなど、
  研究の進め方や研究倫理を話題に
  してみましょう。

社会

情報の真偽や意図・背景を確かめ、根拠をもって自分の考えをつくる力を重視。身近な地域から世界へ視野を広げ、主権者として社会に関わる学びを充実させる方向です。

P146 P147 P151 P158 P159

小学生

情報・プログラミング

情報を上手に・安全に使う力と、しくみの理解を小・中・高で体系的に育てる方向。AIでプログラムが作れても、目的に合った指示と結果の検証が大事だとしています。

P72 P74 P242 P249 P250 P251

- 近所の公共施設やお店を一緒に歩き、まちで働く人を話題にしてみましょう。
- 地図アプリや紙の地図で、出かけた場所を一緒に確かめてみましょう。
- ニュースを見たら「どう思う？」と聞き、子どもの考えを受け止めましょう。

中学生

- 同じ出来事について、ちがう立場の意見を一緒に探してみましょう。
- 郷土資料館や博物館で、地域の歴史を実物で見てみましょう。
- 選挙のときに、候補者や政党の主張を比べる会話をしてみましょう。

高校生

- 社会の課題について、根拠となる資料を示して意見を言う練習をしてみましょう。
- 交通や防災など、住んでいる地域の課題を家族で調べて話し合ってみましょう。
- SNSで広まった話題は、元の情報までたどる習慣を応援しましょう。

小学生

- 使う時間や場所など、端末の「自分ルール」を子ども自身に考えてもらいましょう。
- 家電や信号など、身の回りのコンピュータを一緒に探してみましょう。
- 生成AIは子どもだけで使わせず、使うなら大人と一緒に。利用規約の年齢も確認を。

中学生

- 動画やSNSの「おすすめ」がなぜ表示されるのかを話題にしてみましょう。
- 簡単なプログラミングで、作りたいものを形にする体験をしてみましょう。
- 個人情報やパスワードの扱い方を、家族で確認しておきましょう。

高校生

- AIが作った答えやプログラムには誤りもあり得ると知り、確かめる習慣をつけましょう。
- データを集めて表計算ソフトでグラフにするなど、データ活用を試してみましょう。
- 情報技術の便利さと危うさ（偽情報など）を、家族で話し合ってみましょう。

探究（自由研究）

共通テーマの「テーマ探究」と、
自分の興味から始める「マイ探究」
を組み合わせる方向。体験を
土台に、研究・行動・創作など
多様な探究を認め、考えた過程も
大切にします。 P323 P324 P330

小学生

- 自由研究は、子どもの「なぜ？」「やってみたい」から始めてみましょう。
- 知らなかったテーマにも、親子で一度ふれてみましょう。
- 調べた結果を家族に発表してもらい、質問してみましょう。

中学生

- 「好き」を作品にする（動画・模型・物語など）創作の探究も応援しましょう。
- 途中のメモや失敗も残し、考えの変化を振り返ってみましょう。
- 地域の人に話を聞くなど、その場に行って確かめる体験を大切にしましょう。

高校生

- 自分の進路や生き方につながる問いを、急がず一緒に考えてみましょう。
- AIで得た情報は、だれがいつ発信したかなど元の情報までたどって確かめましょう。
- 探究の成果を、その場で説明して質問に答える練習をしてみましょう。

家庭でできることは、審議まとめの方向性をもとにした原田英語からの提案です。

親子で話すきっかけカード

先生になって教えて

「今日習ったこと、おうちの人に先生みたいに教えてくれる？」

書く・話すで考えを外に出す「外化」で、自分なりの理解をつくることを重視しています。 P10 P28

その話、だれが言ってる？

「この話、だれが言ってるんだろう？ほかのところでも同じこと言ってるかな？」

情報の真偽や意図・背景を確かめ、根拠をもって考える力が重視されています。 P147 P159

AIの答えをチェック

「AIの答え、どこかおかしいところがないか一緒に探してみない？」

AIの出力の正しさを見極めるにも知識が必要で、うのみにしない姿勢が大切とされています。 P9 P282

夢中になったこと

「最近、時間を忘れるくらい夢中になったことってある？」

「好き」を育み「得意」を伸ばすことが、次の学習指導要領の柱の一つです。 P9 P10

むずかしかったところ

「むずかしかったところ、どうやったら分かりそう？作戦を立ててみる？」

学び方を自分で調整する力（自己調整）や学習方略の指導が重視されています。 P10 P28

これ、いくら安くなる？

「「2割引き」って、これだと結局いくら安くなるのかな？」

割合は課題とされる単元で、日常の問題を数学で考える学びも重視されています。 P163 P165

どうしてこうなる？

「どうしてこうなるんだと思う？本当か確かめるには、どうしたらいい？」

身近な現象を科学的に探究する力と、理科と日常生活のつながりが重視されています。 P185 P187

まちを紹介するなら

「このまちのいいところを、外国から来た人に紹介するなら何にする？」

外国語では、自分のことや住んでいる地域のことを伝える活動を充実させる方向です。 P10 P281

考えがちがうとき

「おうちの人とはちがう考えだね。どうしてそう思ったのか聞かせて？」

自分の意見をもち、ちがう考えの人と対話し合意できる力が改訂の両輪の一つです。 P9 P10

似ている言葉

「「うれしい」と「楽しい」って、どうちがうと思う？」

AIの時代だからこそ、人間ならではの語感を磨き、語彙を豊かにする学習が重視されています。 P136

あわてなくて大丈夫なこと

「次期学習指導要領対応」をうたう教材を急いで探す

今は告示前の段階で、各教科の授業時数の実数や英語の基盤語彙リストなど、これから決まることが多く残っています。 P79 P283

「みはじ」「くもわ」のような覚え方の丸暗記を急がせる

審議まとめは、こうした覚え方を暗記させるだけではかえって知識の習得を妨げかねず、意味の理解が欠かせないとしています。 P164

プログラミングのために、家で高価な機材をそろえる

新しい教科・領域の学びは学校で体系的に行う方向で、国が学習動画や教材を整え、3Dプリンター等の整備も進めるとしています。 P243 P262

教科書のすみずみまで覚えさせる

教科書を網羅的に教える授業から抜け出せるよう、教科書は大事なことに精選し、ほかの教材や図書館と役割を分ける方向です。

P57 P58 P88 P89

作文やノートの字の形まで、きれいさで叱る

審議まとめは、書写で評価する「文字を整えて書く力」と、考えを表す手段としての筆記を区別するよう求めています。 P141

今の中高生が、高校の新しい科目名や新単位を気にする

高校の新しい学習指導要領は2032年度入学生からの見込みで、科目名や単位数は告示前で、まだ確定していません。新しい科目は今の中高生には関係しない見込みですが、単位制の柔軟化は2029年度か2030年度に先行実施される方向で、くわしくはこれから決まります。

P51 P80 日程：スケジュール（イメージ）

学校で、こんな変化が見えてきます

通知表

いま	次期（方向・案）

教科ごとに「主体的に学習に取り組む態度」もABCで評価し、学期ごとに評定を確定させる学校が多く、通知表づくりの負担が大きいと指摘されています。

→

「態度」のABCをやめ、総合所見欄で一人一人のよさや成長を文章で見る個人内評価にし、考える・判断する・表現する過程で主体的な姿が特に見られたら「◯」を付け加える方向です。評定のまとめを学年末だけにしてもよいことも明確にする方向です。

P62 P63 P64 P70

家庭では：通知表の様式は学校が決めます。文章の所見に書かれたよさを、お子さんとの会話のきっかけにしてみてください。

時間割（週のコマ数・1コマの長さ）

いま

「年間35週以上」という決まりが「週29コマ必要」という受け止めにつながり、標準より多めに授業時数を組む学校も多くありました。

→

次期（方向・案）

年間40週を標準として授業を平らにならし、週28コマ以下にしやすくする方向です。1コマの長さも各学校が適切に決められることを分かりやすく示します。

P39 P56 P57

家庭では：下校時刻や時間割が変わったら、学校だよりなどで理由を確認し、放課後の予定を無理なく組み直しましょう。

学校ごとの独自の時間（調整授業時数制度）

いま

授業時数を柔軟にする特例校制度は、国の審査・指定が必要で使いにくいとの声がありました。

→

次期（方向・案）

学習指導要領の内容をすべて扱うことを前提に、学校の判断で教科の時数を標準より少なく組み（上限は未決定で、最大限大きくとった場合に15%程度を想定）、生まれた時間を他の教科や学習支援などの時間、先生の研修に使えるようにする方向です。活用状況は学校のウェブサイトで公表します。

P31 P37 P40 P58

家庭では：学校によって時間の使い方が違ってくる可能性があります。学校のウェブサイトや説明会で、ねらいを聞いてみましょう。

教科書

いま

学習に必要な情報の大半や多くの用語が載っていて、「教科書を全部教える」授業から抜け出しにくいと指摘されています。

→

次期（方向・案）

大事なこと（統合的な理解・総合的な発揮）をつかみやすいように内容を精選し、デジタルな形態を含む新しい教科書を導入する方向です。教科書で得た理解は、ほかの教材や学校図書館などで広げる役割分担を考えます。

P58 P88 P89

家庭では：教科書がすっきりしても、学ぶ中身が軽くなるという意味ではありません。図書館の本などで興味を広げる楽しみも応援しましょう。

タブレットとAI

いま

2021年度から1人1台端末の本格的な利用が始まりました。一方で、検索結果の上に出るAIの要約をそのまま写してしまう子への指導が十分でない実態も指摘されています。

→

次期（方向・案）

1人1台端末などの「デジタル学習基盤」が常に使えることを前提に学習指導要領を示す方向です。同時に、情報の信頼性を確かめる力を高め、AIに頼って自分で考えていない成果物が通用しない評価の工夫（口頭試問など）も示していきます。P25 P26 P28

家庭では：家庭での端末やAIの使い方は、学校のルールとそろえて決めると、子どもが迷いにくくなります。

宿題・家庭学習

いま

全員に同じ宿題を出す形が一般的です。

次期（方向・案）

学校で学習の自己調整や効果的な学び方を教えたうえで、一律の宿題から抜け出し、家庭学習の内容を子ども

自身が決められるよう段階的に指導する視点を重視する方向です。英語では、AI翻訳を出せば済むような課題の出し方をしないよう注意が示されています。 P10 P281 P282

家庭では：宿題の形が変わっても慌てずに、「今日は何をどれだけやる？」を本人が決める練習を見守りましょう。

総合の時間・探究

いま

小・中学校は「総合的な学習の時間」、高校は「総合的な探究の時間」です。

→

次期（方向・案）

小学校から高校まで「総合的な探究の時間」という名前にそろえる方向です。学級共通の「テーマ探究」と、一人一人の「マイ探究」を組み合わせ、研究系・行動系・創作系など多様な探究を認めます。小学校には「情報の領域」が加わります。

P11 P77 P78 P323

家庭では：テーマがすぐに決まらなくても大丈夫です。日々の体験や会話の中から、お子さんの「おもしろい」を一緒に探してみましょう。

学校行事・児童会/生徒会

いま

意義がはっきりしない校則や学級のルールなどもあいまって、集団の一体感が「同調圧力」に偏る面があるとの指摘があります。

→

次期（方向・案）

児童会・生徒会が校則など学校のルールづくりに発達の段階に応じて関わる仕組みを明示し、学校行事は企画・運営を含めて子供が主体的に役割を担う方向です。

P10 P11 P351 P355

家庭では：行事の形が変わったり、子どもが話し合いに関わったりする場面が増えるかもしれません。話し合いの様子を聞いてみましょう。

英語の授業

いま

小3・4の「外国語活動」、小5・6の「外国語科」、中学校は授業を英語で行うことが基本です。教科書ごとに扱う単語にばらつきがあり、中学校では難しい単語が増えていると指摘されています。

→

次期（方向・案）

小学校は、外国語活動（音声での慣れ親しみ）から外国語科、さらに中学校へと内容や難しさがなめらかにつながるよう段階的に示し、中学校の授業を生徒の理解に応じた英語で行う方針も維持する方向です。国が「基盤語彙リスト」を作り、指導する語彙の数も精選を含めて見直します。AIを使った会話練習などは、人間同士のコミュニケーションの充実につなげる手段と位置づけます。

P276 P277 P281 P282 P283 P284

家庭では：単語の数を競うより、習った表現を何度も使って楽しむ経験を家庭でも大切にしましょう。

不登校の子の学び

いま

下の学年の学び直しなどに一生懸命取り組んでも、在籍学年の基準で評価されるため「1」や「ー」の記載になり、意欲や自己肯定感が下がるとの指摘があります。

→

次期（方向・案）

校内・校外の教育支援センターなどで学ぶ小中学生のために、授業時数を少なくしたり学び直しを取り入れたりできる「特別の教育課程」をつくり、数値や段階によらない評価も選べるようにする方向です。2028年度からの実施を目指し、高校は当面対象外です。

P54 P367 P369 P371 P379 P384

家庭では：対象になるかは学校・教育委員会が、本人・保護者の意向も聞いて判断します。気になるときは早めに相談しましょう。

障害のある子への支援（合理的配慮・通級）

いま

通常の学級での支援の考え方が保護者などに十分理解されているとは言いがたく、通級による指導の中で教科を教えることは今の制度では難しいとされています。

→

次期（方向・案）

本人・保護者の申し出を受け、建設的な対話による合意形成を通じて合理的配慮を行うことを総則に書く方向です。通級による指導の中で教科の指導を部分的に行えるようにし、端末のアクセシビリティ機能の活用や、配慮の内容を個別の教育支援計画に書いて学校間で引き継ぐことも重視します。

P53 P116 P117

家庭では：困りごとは「お願い」ではなく「一緒に考える相談」として、具体的な場面を伝えると話し合いが進みやすくなります。

部活動・地域クラブ

いま

部活動の地域展開で「地域クラブ活動」が広がる見込みの一方、平日を中心に部活動が続く学校もあります。

→

次期（方向・案）

学校が主体の「部活動」と、学校以外の団体などが主体の「地域クラブ活動」が当面並び立つ前提で、両方を学習指導要領に書く方向です。部活動では体罰・暴言・事故の防止などの記載を充実させます（高校は部活動のみ記載）。

P101

家庭では：地域クラブに移る活動は、運営する団体や費用、送迎などが学校と異なることがあります。お知らせをよく確認しましょう。

全学年に共通すること

通知表・評価：「態度」のABCがなくなる方向

教科ごとの「主体的に学習に取り組む態度」をA・B・Cで評価するやり方をやめ、学校生活全体を通して一人一人のよさや成長を文章で書く評価（総合所見欄での個人内評価）にする方向です。考える・判断する・表現する過程で、自分から動き出す、学びを調整する、対話・協働するといった姿が続けて見られたときは、その観点に「◯」が付きます。評定のまとめを学年末だけにしてもよいことも明確にする方向です。審議まとめは主に評価の考え方と指導要録（学校が保存する公式の記録）について示しており、通知表の様式は各学校が決めるものです。 P62 P63 P64 P65 P67 P70

AIと端末：「使う」と「うのみにしない」の両方

1人1台端末などの「デジタル学習基盤」を常に使える前提で学習指導要領をつくり、発達の段階に応じたAIの適切な活用も示す方向です。一方で、AIの出力をそのまま使って考える過程を省いてしまうことへの注意も強く示され、書く・話すことで自分の理解をつくる学びを重視します。AI時代でも知識の価値は下がっておらず、つながった「確かな知識」がより大切だと整理されています。 P8 P9 P26 P28 P282

不登校の子のための「特別の教育課程」

校内・校外の教育支援センターなどで学ぶ不登校の小中学生のために、その子に合わせた特別の教育課程をつくれる制度が新しく設けられる方向です。授業時数を標準より少なく設定でき、下の学年の内容の学び直しや、数字を付けずに文章で評価する方法も選べるようにします。時数などは本人・保護者の意向も聞いて決め、2028年度からの先行実施を目指します（高校は当面対象外）。 P97 P98 P367 P371 P374 P378 P379 P384

障害のある子・特異な才能のある子への支援

合理的配慮（障害のある子が学べるよう個別に行う調整）について、本人・保護者の申し出を受けて話し合い、合意をつくって行うことを総則に書く方向です。通級による指導の中で教科の指導もできるようにします。特定分野に特異な才能のある小中学生には、一部の教科に代えて高度な学びに取り組める特別の教育課程を設けますが、才能を「診断」するものではなく、入試対策を助長しない運用が前提とされています。 P96 P117 P118 P386 P388 P390

授業時数と「余白」

1年間の標準の授業時間の合計は今と同じに保ちます。そのうえで、内容をすべて扱うことを前提に、学校の判断で対象教科等の時数を標準より下回って組める「調整授業時数制度」を設け（上限は未決定で、最大限大きくとった場合に15%程度を想定。年間35コマ以下の教科等は対象外）、生まれた時間を他の教科や学校独自の学び、先生の研修などに使えるようにする方向です。年間40週を標準として週28コマ以下にしやすくし、子供と先生に深い学びのための時間的ゆとり（「余白」）を生みます。学校は活用状況をウェブサイトで公表します。 P31 P36 P37 P38 P40 P56 P79

教科書はしぼり込み、デジタルな形も

今の教科書は情報を詰め込みすぎて、全部教えなければという意識につながっていると指摘されました。次期は大事なことをつかみやすい形に精選し、デジタルな形態を含む新しい教科書が導入される方向です。新しい教科書は小学校2030年度、中学校2031年度、高校2032年度から使われる見込みです。 P57 P58 P59 P89

学習指導要領が「表」と「デジタル版」に

学習指導要領を文章の羅列から表の形にし、検索やリンクができるウェブ版「デジタル学習指導要領」をつくる方向です。学年別の目標はやめ、学年は「◯学年相当」と示して柔軟に指導できるようにします。保護者も含め誰でもアクセスしやすくすることで、子供自身が身につけるべき力を意識するきっかけになるとされています。 P17 P19 P21

まだ決まっていないこと

審議まとめは告示前の方向性です。たとえば、各教科の具体的な授業時数（情報の時間を生むための3〜4%程度の削減の実数）、調整授業時数制度で標準を下回れる上限（15%程度を想定）、英語の基盤語彙リストと語数、評価の「見取る姿」の中身、高校の新科目名（多くは仮称）、外部試験による免除の対象試験などは、これから決まります。日程も「今後変更の可能性がある」とされています。 P65 P79 P283 P284

AIとタブレット：わが子はどう使う？

次期学習指導要領では、学習指導要領に「AIの適切な活用」が書かれる方向です。AIを使う場面と使わない場面を先生が目的に合わせて決め、AIの答えをうのみにせず確かめる力を育てることが大切にされています。

タブレットとAI

1人1台端末などの「デジタル学習基盤」が常に使えることを前提に学習指導要領を示す方向です。同時に、情報の信頼性を確かめる力を高め、AIに頼って自分で考えていない成果物が通用しない評価の工夫（口頭試問など）も示していきます。 P25 P26 P28

家庭では：家庭での端末やAIの使い方は、学校のルールとそろえて決めると、子どもが迷いにくくなります。

AIと学び（やさしい解説）

受験（高校入試・大学入試）はどうなる？

【高校入試】審議まとめは第1部第8章(4)「高等学校入学者選抜の在り方」で、改善の方向を示しています（P86）。課題として、個別の知識を単純に問う出題が今も残っていること、入試を背景にした保護者の懸念などが「教科書を全部教える」意識につながっているとの指摘を挙げています。そのうえで、①知識の記憶を単純に問うのではなく、主要な概念の本質的な理解や思考力・判断力・表現力を問う出題を充実させるよう国が支援する、②都道府県教育委員会などが出題方針の公表や作問の解説、分析結果の共有を進める、③採点などでAIを含むデジタル技術を活用し負担を軽くする、④各高校の特色に応じた多様な選抜方法を整理する、⑤不登校の特別の教育課程で受けた評定の扱いや、障害のある生徒の受検上の合理的配慮を整理する、⑥学力検査を行わない選抜や調査書を用いない選抜も必要に応じてできるよう、法令（学校教育法施行規則第90条）の在り方を検討する、としています。入試の方法は実施者である教育委員会等が決めることが前提で、都道府県教育委員会と意見交換しながら検討するとされ、いつから変わるかは示されていません。不登校の特別の教育課程での評価は、調査書への記載や一定の加点、学力検査・面接の重視などの検討を促すとしています（P381）。 【大学入試】審議まとめは、大学入試の制度（科目や方式など）をどう変えるかは扱っておらず、未定です。

触れているのは、高校の単位制を柔軟にしても大学入試対策に過度に傾いた運用は防ぐこと（P44、P52）、数学の学びの成果が大学入学者選抜で適切に評価されるよう高校・大学の関係者と対話を進める必要があること（P179）などにとどまります。 P44 P52 P55 P86 P179 P381

よくある誤解

Q 英語の単語がすごく増えるから、今のうちに塾で単語を詰め込まないと間に合わない？

A 次の学習指導要領で学ぶ単語の数は、まだ決まっていません。審議まとめは、今の学習指導要領で語彙数が大きく増えた一方、教科書ごとに単語のばらつきがあり中学校で難しい単語が増えたことを課題とし、国が「基盤語彙リスト」を作って、指導する語彙数を精選も含めて見直す方向を示しています。大事な単語を様々な場面で繰り返し使えるようにするねらいで、家庭での先取りを求める記述はありません。 P61 P277 P283

Q 「余白」ができるなら、学校の勉強はゆるくなる？

A 「余白」は「多様な子供たちの深い学びを実現するための時間的余裕」という意味です。1年間の標準の授業時数の合計は今と同じに保ち、調整授業時数制度も学習指導要領の内容をすべて扱うことが前提です。内容を減らして楽にするのではなく、大事なことを深く学ぶための時間をつくる考え方です。 P8 P31 P79

Q 「主体的に学習に取り組む態度」のABCがなくなるなら、やる気や態度は評価されなくなる？

A 評価をやめるのではなく、評価のしかたを変える方向です。総合所見欄で一人一人のよさや成長を見る個人内評価と、考える・判断する・表現する過程での「◯」の付記を組み合わせます。審議まとめ自身が、「しなくてもよくなる」「軽視してよい」という誤った理解にならないよう趣旨を周知すべきだとしています。 P63 P64

Q 「◯」をもらうには、授業でたくさん手を挙げればいい？

A 「◯」は、考える・判断する・表現する過程で、自分から考え動き出す、学びを自分で調整する、対話・協働するといった姿が特に見られたときに付け加えるものとされています。「初発の思考・行動」は、与えられた課題に積極的に取り組むかといった入り口の自主性だけにとどまらないよう検討するとされ、単元ごとに「◯」を付ける運用も求めない方向です。 P64 P65

Q AIが何でも答えてくれるから、もう知識を覚える必要はない？

A 審議まとめは、AI時代に人間が知識を持つ意義をあらためて整理しています。AIに出す問いや指示をつくるにも、AIの答えが正しいかを見極めるにも、責任をもって判断するにも、一定の知識が必要だとしています。そのうえで、知識が関連づいてほかの場面でも使える「確かな知識」として身につけることを重視し、AIの出力をそのまま使って考える過程を省いてしまうことへの注意も示しています。 P9 P28

Q これからは全部タブレットになって、紙のノートや手書きはなくなる？

A 1人1台端末などのデジタル学習基盤は常に使えることを前提にする方向ですが、「デジタルかリアルか」の二項対立に陥らないことが重要だとされています。国語では、文字を書く力はすべての学びの土台だとして、とくに小学校で手書きによる書写を丁寧に指導する方向です。教科書も「デジタルな形態を含む」新しい教科書とされ、紙がなくなるとは書かれていません。 P26 P88 P141

Q 特異な才能のある子の「特別の教育課程」は、受験に有利な飛び級コース？

A 本来の学年に在籍したまま、一部の教科に代えて高度な学びに取り組む仕組みで、飛び級・飛び入学のような「完全早修」ではありません（一部で先の内容を学ぶ「部分早修」を取り入れることはあります）。入試対策や単なる早修を助長しないよう、指導要録本体には特別の教育課程を編成したことを書かない、という考え方も示されています。 P98 P381 P387

Q 全面実施は2030年度以降だから、いまの小学校高学年や中学生には関係ない？

A　全面実施の前から、調整授業時数制度（小・中とも2028年度～）、小学校の「情報の領域」（2028年度～段階的）、中学校の「情報・技術科」（2029年度～段階的）、不登校の子の特別の教育課程（2028年度～）などを先に始められるようにする方向が示されています。実際にどう取り組むかは学校や地域によって異なります。 P38 P79 P262 P384

面談で先生に聞いてみたいこと

- [ ] 授業の中で、うちの子が一番生き生きしているのはどんな場面ですか？家でもその話をしてみたいです。
- [ ] 今つまずいていそうなところがあれば教えてください。家で一緒に振り返るとしたら、どこから始めるのがよいでしょうか？
- [ ] 宿題や家庭学習を子どもが自分で計画できるようになるために、家ではどんな声かけをするとよいでしょうか？
- [ ] 学校ではタブレットや生成AIをどんなルールで使っていますか？家のルールもそろえたいので教えてください。
- [ ] 総合（探究）の時間では、どんなテーマに取り組んでいますか？家族で応援できることはありますか？
- [ ] これから時間割（週のコマ数や1コマの長さ）や学校独自の時間を見直す予定はありますか？家の予定づくりの参考にしたいです。
- [ ] 通知表や評価の考え方が変わるとき、家ではどんな点に注目して読むとよいでしょうか？
- [ ] 英語の授業とつながるように、家ではどんなふうに英語にふれるとよいでしょうか？
- [ ] 学習面や生活面で配慮をお願いしたいとき、どなたに、どのように相談すればよいですか？
- [ ] 新しい学習指導要領に向けて、学校で準備されていることや、保護者に協力してほしいことはありますか？

責めるためではなく、一緒に考えるための質問です。

出てくる言葉を、やさしく

学習指導要領

学校で何を目標に、どんな内容を教えるかを国が定めた大もとの基準です。教科書や時間割もこれをもとにつくられます。

審議まとめ

中央教育審議会（中教審）の教育課程部会が、2026年10月5日にまとめた「次の学習指導要領の方向性」の報告です。まだ正式決定ではなく、これをもとに答申・告示へ進みます。 P1

答申

中教審が、文部科学大臣からの相談（諮問）に答えて正式にまとめる意見です。スケジュール（イメージ）では2026年度の冬ごろの見込みです。

告示

文部科学大臣が新しい学習指導要領を正式に決めて公に示すことです。スケジュール（イメージ）では幼稚園・小学校・中学校が2027年3月ごろ、高校は2027年度末の見込みです。 P51

先行実施（移行期間）

全部が切りかわる前に、一部を先に始められる期間のことです。調整授業時数制度は小・中とも2028年度から、新しい教科・領域は小学校が2028年度・中学校が2029年度から段階的に、高校の単位のしくみの柔軟化は2029年度か2030年度に先に始める方向です。 P38 P51 P79 P262

全面実施

新しい学習指導要領で全学年が学ぶようになることです。小学校は2030年度、中学校は2031年度、高校は2032年度の入学生から学年ごとに始まる見込みです。 P38 P79

調整授業時数制度

教える内容はすべて扱ったうえで、学校の判断で教科の授業時間を標準より少し少なく組み、生まれた時間を別の教科や学習支援、先生の研修などに使えるようにする新しいしくみです。どこまで減らせるかの

余白

多様な子どもたちが深く学べるようにするための「時間的なゆとり」のことです。内容の精選や時間割の見直しなどで、子どもと先生の両方に生み出すことを目指しています。 P8

上限はまだ決まっていません。
P31 P37 P40 P58

統合的な理解・総合的な発揮

「統合的な理解」は、ばらばらに覚えた知識や技能がつながり、一般化されて分かった状態のことです。「総合的な発揮」は、むずかしい課題を解くために、考える力などを組み合わせて使えている状態のことです。次の学習指導要領はこの2つを軸に内容を整理する方向です。 P13

情報活用能力

情報や情報技術を、目的に合わせて上手に、安全に使う力です。小学校の「情報の領域」では、情報を集めて整理し表現する「活用」、リスクを理解しルールを守る「適切な取扱い」、しくみを理解する「特性の理解」の3つで整理されています。 P72 P250

デジタル学習基盤

1人1台端末やクラウド、通信ネットワーク、デジタル教科書・教材などをまとめた、学びのための土台のことです。次の学習指導要領は、これが常に使えることを前提に示す方向です。 P26

個人内評価と「◯」の付記

ほかの子や基準と比べるのではなく、その子自身のよさや伸びを見て文章で伝える評価が「個人内評価」です。あわせて、考える・判断する・表現する場面で主体的な姿が特に見られたときに、その観点に「◯」を付け加える方向です。 P63 P64 P65

合理的配慮

障害のある子がほかの子と同じように学べるよう、その子に合わせて行う調整や工夫のことです。本人・保護者の申し出を受け、学校と話し合って合意をつくり、過重な負担のない範囲で行います。 P117

テーマ探究・マイ探究

「テーマ探究」は先生が設定した学年や学級共通のテーマで取り組む探究、「マイ探究」は一人一人が自分の興味・関心からテーマを決めて取り組む探究です。この2つをバランスよく組み合わせる方向です。 P77 P323

基盤語彙リスト

国が作る予定の英単語のリストで、教科書の単語の選び方や難しさをそろえるためのものです。教科書会社にはこのリストの語を使うことがすすめられる方向で、指導する語彙数も精選を含めて見直されます。まだ公開されていません。 P61 P283

スケジュール早見表

年度	2026 令和8年度	2027 令和9年度	2028 令和10年度	2029 令和11年度	2030 令和12年度	2031 令和13年度	2032 令和14年
幼稚園等	審議・答申	周知	**全面実施**				
小学校	審議・ 答申・告示	周知	先行実施	先行実施	**全面実施**		
小学校の教科書		著作・編集	検定	採択・ 供給	**使用開始**		
中学校	審議・ 答申・告示	周知	先行実施	先行実施	先行実施	**全面実施**	
中学校の教科書			著作・ 編集	検定	採択・ 供給	**使用開始**	
高等学校	審議・答申	告示 （年度末）	周知	先行実施	先行実施	先行実施	**入学生が**
高校の教科書				著作・ 編集	検定	採択・ 供給	**使用開始 （学年ご**

現行（審議中）　周知・準備　移行期間（先行実施）　全面実施　今年度

出典：文部科学省「学習指導要領等の改訂に関するスケジュール（イメージ）」（令和8年10月5日 第136回教育課程部会 参考資料7。「今後変更の可能性がありうる」と注記）をもとに作成。先行実施の具体的な時期や内容は「随時検討」とされています。

保護者の方からよくある質問

Q　うちの子はいつから新しい内容で学ぶのですか？

A　文部科学省のスケジュール（イメージ）では、全面実施は小学校2030年度、中学校2031年度、高校は2032年度の入学生からです。2026年度の学年で計算すると、小1・小2のお子さんは小学校の途中から、小3・小4のお子さんは中学校の途中から新しい学習指導要領になり、小4以下のお子さんは高校も新しい学習指導要領で学びます。小5以上のお子さんは全面実施の前に中学校を卒業しますが、2028年度ごろからの先行実施で一部に出会う可能性があります。いずれも「今後変更の可能性がある」とされています。

Q 英語の単語はたくさん覚えることになるのですか？

A 今の学習指導要領の目安は、小学校600〜700語、中学校1,600〜1,800語、高校1,800〜2,500語です。審議まとめは、国が「基盤語彙リスト」を作り、語の難しさや使う頻度から重要度を考えて、指導する語彙数を精選も含めて見直すとしています。教科書の単語の難しさをならし、大事な単語を繰り返し使って身につけるねらいです。次期の語数はまだ決まっていません。

Q 家でAIを使わせてもいいですか？

A 審議まとめは家庭でのAI利用のルールを決めるものではありません。学校では発達の段階に応じたAIの適切な活用を示す一方、AIの出力をうのみにしないこと、AIに頼って考える過程を省かないことを重視しています。英語では、家庭学習の課題をAI翻訳で済ませられるような出し方をしないよう注意も示されました。家庭でも、学校のルールに加え、利用するサービスの年齢制限や保護者の同意などの利用規約を確認し、氏名・顔写真・学校名など本人や他人の個人情報を入力しないようにしたうえで、使ったら自分の言葉で説明できるかを一緒に確かめるとよいでしょう。

Q 通知表はどう変わりますか？

A 通知表の様式は各学校が決めるものですが、評価の考え方は変わる方向です。教科ごとの「主体的に学習に取り組む態度」のA・B・C評価をやめ、学校生活全体を通じた文章での評価にし、考える・判断する・表現する観点に、主体的な姿が続けて見られた場合の「◯」を付け加えるしくみが示されました。評定のまとめを学年末だけにしてもよいことも明確にする方向です。具体的な運用は今後示されます。

Q 授業時間は減るのですか？

A 1年間の標準の授業時間の合計は今と同じに保つ方針です。ただし、学校が対象教科等の時数を標準より下回って組める「調整授業時数制度」をつくり（上限は未決定で、最大限大きくとった場合に15%程度を想定。年間35コマ以下の教科等は対象外）、生まれた時間を別の教科や学校独自の学びなどに使えるようになる方向です。年間40週を標準として週28コマ以下にしやすくするため、1週間あたりのコマ数が減る学校はあり得ます。具体的な数字はこれから決まります。

Q　タブレット（1人1台端末）はどうなりますか？

A　1人1台端末などのデジタル学習基盤は、これからも常に使えることを前提にする方向です。障害のある子などの学びやすさを支える土台（基礎的環境整備）としても位置づけられます。一方で「デジタルかリアルか」の二者択一ではなく、デジタルの力も使ってリアルな学びを支えるバランスや、負の側面への注意も示されています。

Q　不登校でも学べる仕組みはありますか？

A　校内・校外の教育支援センターなどで学ぶ不登校の小中学生のために、授業時数を標準より少なくしたり、学び直しをしたりできる「特別の教育課程」を新しくつくる方向です。評価も、数字を付けず文章で頑張りや成長を書く方法などを選べるようにし、高校入試の調査書での扱いも検討を促すとしています。2028年度からの先行実施を目指しています。対象かどうかは学校や教育委員会が判断し、本人・保護者の意向も聞いて決めます。

Q　英検などを持っていると、高校の英語の授業が免除されるのですか？

A　社会的に信頼できる外部試験でCEFRのB2レベル相当以上の力が確認でき、振り替え先で英語の力を発展的に伸ばせるなど3つの要件をすべて満たす場合に、「英語コミュニケーション（総合）Ⅰ」（仮称）の履修を免除し、上位の英語科目や外国語に関する学校設定科目、学校外学修などに振り替えられるようにする方向です（芸術など関係の薄い科目への振り替えは認めない考え方です）。ただし学校として実施できる場合の選択肢で、必ず免除されるものではありません。どの試験の何級が対象になるか、いつから始まるかは、まだ決まっていません。

Q　教科書は変わりますか？

A　変わる見込みです。新しい教科書は小学校2030年度、中学校2031年度、高校2032年度から使われる予定です。大事なことをつかみやすいよう内容を精選し、デジタルな形態を含む新しい教科書が導入される方向です。

Q　塾や家庭で先取り学習をしておくべきですか？

A 審議まとめには、家庭での先取り学習をすすめる記述も、必要とする記述もありません。改訂は内容を大きく増やすのではなく、大事なことにしぼって深く理解することを目指しており、才能を伸ばす特別の教育課程や外部試験による免除も、入試対策や単なる早修を助長しない運用が前提とされています。家庭では、先に進むことよりも、習ったことを自分の言葉で説明できるかを大切にするのが、改訂の方向性に沿った関わり方といえます。

Q 高校入試や大学入試は変わりますか？

A 高校入試については、知識を単純に問う出題を減らし、概念の理解や思考力を問う出題を充実させることや、多様な選抜方法の整理などを国が支援・検討する方向が示されています。ただし入試の方法は各教育委員会等が決めるもので、いつから変わるかは示されていません。大学入試の制度をどう変えるかは、審議まとめでは扱っておらず未定です。

Q 保護者も意見を伝えられますか？

A はい。審議まとめへの意見募集（パブリックコメント）は誰でも出せ、締切は2026年11月5日23時59分です（e-Govの案件ページから提出）。告示の前には、学習指導要領の案についての意見募集も冬ごろに予定されています。また、学校運営協議会を置く学校では、調整授業時数制度の活用方針をその協議会が承認するしくみも示されています。

家庭学習に使える無料サイト（原田英語）

英単語

究極の英単語帳6868

CEFR-J Wordlist 全6,868語。音声・例文・語源・ゲーム・PDF単語帳つき。基盤語彙リストに備える語彙指導に。

サイトを開く →

行事

世界の行事・祝日ナビ

ハロウィンもクリスマスも、由来から英語で。世界の行事145とワークシート。季節の帯活動や異文化理解の題材に。

サイトを開く →

日本文化

日本文化ナビ

日本のことを英語で語れる1,200項目。3段階の英文と音声。地域や日本の文化を発信する単元に。

サイトを開く →

英語ニュース

時事英語ジュニア

中高生のためのやさしい英語ニュース。2レベル・和訳・クイズつき。社会的な話題を読んで意見を伝える活動に。

サイトを開く →

多読

原田英語の多読ベスト

レベル別の無料多読1,800本超。全作品に全訳つき。たくさん読んで語彙に何度も出会う活動に。

サイトを開く →

話題

今日は何の日？

毎日の記念日と由来。朝の会や授業はじめの Small Talk のネタに。

サイトを開く →

もっと知りたい方へ

全教科の早見表

教科ごとの変化を小・中・
高で1行ずつ。

見る →

図解アニメで見る

動く図で、全体像と校種ごとの
変化をつかめます。

見る →

英語はこう変わる

単語の数・高校の新科目・AIの使い方。

見る →

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。

※ 次期学習指導要領はまだ告示前で、内容は今後の答申・告示で変わることがあります。「家庭でできること」「すること」は、審議まとめの方向性をもとにした原田英語.comからの提案です。